



～ 仲間たちとの絆を胸に～

令和7年登米市 二十歳の集い

「令和7年登米市二十歳の集い」が1月12日、エスピー食品とよま蔵ジウム(登米総合体育館)で開かれました。

式典には、二十歳を迎えた対象者757人のうち612人が出席。振り袖やスーツに身を包んだ出席者たちで会場は華やかな雰囲気になりました。

実行委員がカラフルな風船で彩られたフォトスポットを設置。参加者は旧友との再開を喜び合い、記念撮影を楽しみました。

式典で熊谷盛廣市長は、「いつの時代にあっても、若者の挑戦する姿は周囲の人たちに勇気と希望を与えてくれます。どのようなことにも臆せず、チャレンジすることをお忘れず、いってほしい」と式辞を述べました。実行委員が企画・制作した恩師からのメッセージ動画が上映されると、参加者からは歓声と笑い声が上がりました。

出席者を代表して誓いの言葉を述べた畠山啓汰さん、東和町錦織1区、及川紗汰さん、豊里町新町は、「20年間支えてくれた人たちに感謝し、大人としての自覚と責任を持ち、夢や目標に向かって日々努力していくことを誓います」と決意を新たにしました。

二十歳の主張



菅原 理希さん
(米山町猪込)

生まれ育った登米市で、人生の節目となる日を迎えられたことに喜びと身が引き締まる気持ちで胸がいっぱいです。思い返せば5年前、中学校を卒業し、今日久しぶりに友人と顔を合わせ、懐かしい気持ちとともに私たちが大人になったことを改めて実感しています。

現在は、一人一人が違う道に進んでいます。今の世の中は数多くの情報が飛び交い、その中から取捨選択していかねければなりません。時には大きな壁にぶつかり、悩み、不安になることも多くあるでしょう。しかし、そんな時こそ、登米市を故郷にする者同士助け合いながら乗り越えていきます。

私は現在、登米市職員として働いています。まだまだ知識や経験不足で、理想の職員になるまでには時間がかかると思っています。しかし、「千里の道も一歩から」ということわざがあるように、毎日少しずつ自身が成長できるよう努力を積み重ね、理想の職員になれるように精進し、人として成長し続けることを誓います。

二十歳の主張



小堀 彩花さん
(登米町日野渡)

登米市は、地域の絆が強く、思いやりにあふれたまちだと感じています。学生時代、登校時に地域の皆さんから、「おはよう」「いってらっしゃい」と笑顔で見送ってもらい、下校時には、「おかえりなさい」「気をつけて帰ってね」といつも声をかけてもらいました。

今年のテーマでもある「絆」は、目に見えないものではありません。だからこそ、私はあいさつや礼儀を心がけ、日々のコミュニケーションを積み重ねていくことが大切だと考えています。

また、そうして積み重ねられた絆によって誕生した登米市は、本年4月1日をもって、市制施行20周年を迎えます。私は、自然や歴史的建造物、伝統芸能などの魅力に囲まれ、思いやりにあふれた登米市で過ごせていることが幸せです。

たくさんの人に20年間支えてもらったように、今度は私たちが誰かの支えとなるよう、より一層精進し、10年後、20年後の登米市へつないでいきます。